



9月はいよいよ刈り取りです！
刈り取り適期を見極め、高品質米生産を目指しましょう

秋田地区営農センター 主任 保坂 薫

● 刈り取り時期の診断ポイント

刈り取り適期は品種・圃場によって異なりますので、総合的に判断してください。

① 出穂後の日数による判断

早生品種(あきたこまち)…出穂後45日頃
中生品種(めんこいな・ひとめぼれ)…出穂後50日頃

② 出穂後の積算気温による判断(日平均気温の積算値)

早生品種(あきたこまち)…950℃～1,050℃
中生品種(めんこいな・ひとめぼれ)…1,050℃～1,150℃

③ 籾の黄化程度による判断

籾の90%が黄化した頃(黄化=黄色+黄白色)



刈り取り適期は通常出穂後の積算気温を目安としますが、
最終的には各圃場の籾の黄化程度を目で見えて判断しましょう。

秋作業時の注意点

刈り取り

刈り取りが遅れますと胴割れ、発芽等の被害粒が発生しますので、刈り取り適期を逃さないよう注意しましょう。

水分

水分は15.0%以下を目標に調整をお願いします。乾燥の際、生籾の水分に注意し、むら乾燥、同割米等が生じないようにしましょう。

量目

計量器の点検と調整は忘れずに行いましょう。量目不足の場合、不足分の補充をお願いすることになりますので注意してください。量目は、皆掛で紙袋は30.5kg、フレコンは1,032kgとなります。

調整作業

整粒歩合80%以上を目標に、適正な流量で選別を行ってください。1.9mmの選別網を使用することで、カメムシ斑点米の混入を抑えやすくなります。また、例年異物(ガラス、金属片、死骸など)が混入している米があります。**機械の清掃を必ず行ってから調整作業をし、最初の米は出荷せず飯米等に回してください。**

● 栽培履歴の提出について

JA米の条件のひとつとして栽培履歴の記帳と提出が必須となっています。

まだ提出されていない方は、早急に最寄りの支店またはグリーンセンターへ提出をお願いします。